

OIE アジア・極東・オセアニア地域総会におけるサイド・イベント “Veterinary Capacity Building in Asia (アジア地域における獣医人材の育成)” の開催

OIE アジア・極東・オセアニア地域総会が、令和元年9月2～6日に仙台市の仙台国際センターにおいて開催された。その会期中、地域総会のサイド・イベントとして、日本獣医師会と国際協力機構（JICA）の主催により、“Veterinary Capacity Building in Asia（アジア地域における獣医人材の育成）”をテーマとするシンポジウムが開催された。

サイド・イベントは9月4日17:30に開会され、冒頭にOIEアジア太平洋地域事務所代表 釘田博文氏、OIE本部事務局長 Monique Eloit 氏から挨拶が行われた。

シンポジウムは地域総会に参加した各国の家畜衛生関係者及び日本の関係者の出席を得て、日本獣医師会 古賀俊伸 事務局長により進行された。

第一部では、日本獣医師会の実施するアジア地域臨床獣医師等総合研修事業（TP-FAV）について紹介された。まず、事業の全体像について日本獣医師会の福田淳志職員から説明された。続いて実際に研修生を受け入れている北海道大学 迫田義博 教授により研修事業について指導者の立場から情報提供が行われ、さらに、タイから

本年度の研修事業に参加している Sirawit Pagdepanichkit 氏により研修生の立場から研修内容の報告が行われた。

続いて行われた質疑においては、海外の出席者から事業の運営及び研修の内容等について具体的な質問が寄せられ、本事業に海外の関係者が興味を寄せていることが伺われた。

第二部では、JICAのアジア地域における人材育成事業が紹介された。

まず、JICA九州市民参加協力課長 平 知子氏から、JICAが実施する事業の概要が説明された。続いて「モンゴル獣医・畜産分野人材育成能力強化プロジェクト」について Gombojav Altangerel 氏と Otgontugs Bat 氏から、「ミャンマー口蹄疫対策改善プロジェクト」について JICA 国際協力専門員 要田正治氏から紹介された。

本サイド・イベントは、日本獣医師会の国際関係事業を海外の主席獣医官（CVO）をはじめ家畜衛生専門家に紹介し、印象付ける機会となり、非常に有意義なものであった。



図1 開会の挨拶をする釘田氏



図2 開会の挨拶をする Eloit 氏